



木工事が完了しました。

藤枝市 I邸にて車庫兼倉庫を建築しました。



4月12日上棟

5月17日完成です。



木くぼり

樹木の不思議 62

DNAで木の身元調べ

杉の挿し木



杉の挿し木林業地



街でばったり自分にそっくりな人に出会う。どうしても気になって調べてみたら、実は自分の体の組織の一部から再生されたクローン人間だった…などということはまだ現実のお話ではありません。私たち人間ではすべての遺伝子がそっくり同じクローンはいまのところ一卵性双生児の場合ですが、樹木の世界ではもっと頻繁に見ることができます。

昔から、性質のよい個体があるとそのクローンを増やすために、さし木やつぎ木という人工的な無性繁殖法が用いられてきました。スギでは約300年前からさし木による造林が行なわれ、九州地方、京都北山、千葉山武など有名なさし木林業地があります。また、長い歴史の中では、いつの間にか異なるクローンが混在している場合もあります。このようなときにクローンの異同を識別して整理するための決め手となるのは遺伝子の本体であるDNAの相違です。

人工繁殖の場合だけでなく自然状態でも、クローンが識別できたら、という場面があります。地下茎で増えていく竹や笹はどこまでが一つのクローンなのかたいへん興味がある所です。また、動物によって貯蔵されたり落下した果実内にあった複数の種子が同じ場所で発芽して育ち外見上区別しにくくなっている場合、一つの株にいくつかのクローンが混ざっている可能性もあります。

近年、DNAのさまざまな部位をランダムに選んで分析するRAPDという方法が開発されてから、クローンの分析が比較的簡単になりました。この方法で約30株を調査したところ複数のクローンが混じっているものが5株も見つかりました。また、逆に少し離れた隣の株がじつは同じクローンだったという例が3組見つかりました。倒れた幹の途中から発根して新しい株ができたのかもしれませんが。

このように、個体を見分けることにより、林業上重要な品種の識別や、自然状態での思いがけない繁殖のしかたが明らかになっていきます。